



透析患者さんと带状疱疹

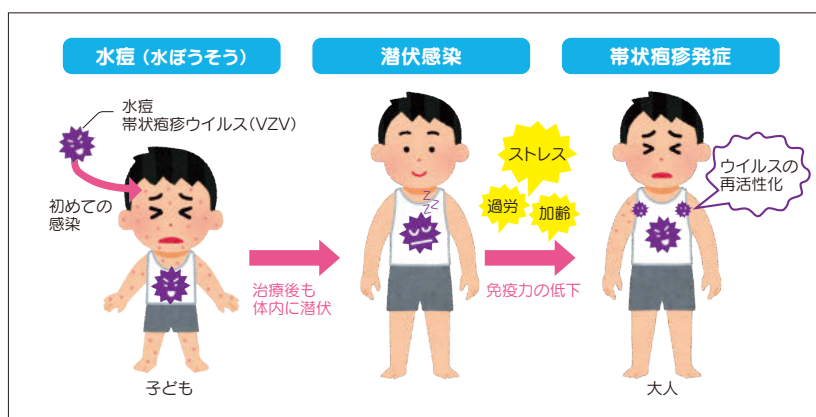
腎臓・透析科 医師 田代 温



带状疱疹とは

はじめて水痘・带状疱疹ウイルス(VZV)に感染した時は水ぼうそうとして発症します。水ぼうそうが治った後も、ウイルスは体内の神経節に潜伏して、加齢・ストレス・過労が引き金となって带状疱疹として発症します。

成人の90%以上がVZVに罹ったことがあり、80歳までに3人に1人は带状疱疹を経験すると言われています。



透析患者さんと带状疱疹

透析を受けている患者さんは、带状疱疹のリスクが2倍になると言われています。透析患者さんが带状疱疹に罹ると、重症化(顔面の带状疱疹、髄膜炎、脳炎、脳梗塞)しやすいだけでなく死亡率も高いです。また、全身の至るところに発生する(汎発性)頻度も多く、その場合は空気感染を起こし、院内集団感染を起こす可能性もあります。

透析患者さんが带状疱疹ワクチンを接種するメリット

発症、重症化予防にはワクチンを接種することが重要です。

带状疱疹のワクチンには生ワクチンの「ビケン」と不活化ワクチンの「シングリックス」の2種類があります。ただ、透析患者さんは免疫が弱く生ワクチンの「ビケン」の投与ができないため、不活化ワクチンの「シングリックス」しか接種できません。

「シングリックス」は「ビケン」より発症予防効果、重症化予防効果が高く、90%程度あります。また、効果も10年以上続くメリットがあります。一方デメリットとしては、値段が高い点です。ただ、市町村の助成金制度を活用できる場合がありますので、かかりつけの医療機関にご確認ください。

参考文献

日内会誌 108 : 2275~2285, 2019

Up to Date Vaccine efficacy in end-stage kidney disease

#IOSPY #IOSPY #IOSPY #IOSPY #IOSPY #IOSPY #IOSPY

帯状疱疹の症状

皮膚科 医師 南部 愛

- 神経にそって体の左右どちらか一方にチクチク、ピリピリする痛みが起こります。
- 数日～1週間ほどでその部分に帯状に赤い斑点があらわれ、痛みを伴います。
- 続いて赤い斑点上に水ぶくれがあらわれます。
- 水ぶくれは破れてただれた状態となり、2～3週間で黒褐色のかさぶたに変わります。4～6週間でかさぶたが取れて治っていきます。



一般的な合併症として、発熱や頭痛がみられることがあります。顔面の帯状疱疹では、角膜炎や結膜炎などを起こすことがあります。耳の周辺に現れた場合は、耳鳴りや難聴を伴い、顔面神経麻痺を生じることがあります(ラムゼイ・ハント症候群)。

通常、皮膚症状が治ると痛みも消えますが、その後もピリピリするような痛みが持続することがあります。これを**帯状疱疹後神経痛**といいます。これは急性期の炎症によって神経に強い損傷が生じたことによって起こります。

帯状疱疹は早期に適切な治療を行うことで、症状を軽くし、合併症や後遺症である帯状疱疹後神経痛のリスクを減らすことができます。

帯状疱疹かなと思ったら、早めに医師にご相談ください。

参考文献：

日本皮膚科学会 皮膚科Q&Aヘルペスと帯状疱疹(<https://www.dermatol.or.jp/qa/qa5/q11.html>)より画像引用



带状疱疹の治療薬



薬剤師 田中 義輝

带状疱疹の治療薬は大きく2つに分けられます。1つは带状疱疹ウイルスの増殖を抑える抗ウイルス薬、もう1つは带状疱疹に伴う痛みを和らげる痛み止めです。

抗ウイルス薬

抗ウイルス薬は症状が出現してから速やかに内服する必要があります。症状が出始めて数日経過してから内服を開始しても効果が低いことも報告されています。現在、带状疱疹に使用される内服の抗ウイルス薬は以下の4種類があります。

・ゾビラックス(アシクロビル)、バルトレックス(バラシクロビル)、ファムビル(ファムシクロビル)

通常、ゾビラックスは1日5回、バルトレックスとファムビルは1日3回服用します。これらの薬の副作用で、意識障害やせん妄、幻覚が見えるなどの症状が現れることがあります。このような症状が見られた場合はすぐ病院に連絡をしてください。また、腎臓の働きが悪くなることもあり、これを予防するために服用中は適度な水分補給を心がけましょう。

・アメナリーフ

新しいタイプの抗ウイルス薬で1日1回の内服で治療が可能です。この薬を空腹時に服用すると、薬の吸収が低下するため、必ず食後に服用する必要があります。

※重症例、免疫力が低下している患者さんの場合は点滴の抗ウイルス薬が使用される場合もあります。

痛みに対する治療

带状疱疹の急性期における痛みは一般的に皮膚の症状が現れる数日前から出現して、2～4週間程度で軽減します。また、一部の患者さんは皮膚の症状が消えても痛みが残る場合があります、この痛みを「带状疱疹後神経痛」と呼びます。

治療には痛み止めを使用しますが、痛みの程度や種類によって薬を使い分けます。痛みが強い場合には神経ブロック療法が行われることもあります。



急性期の痛みに対する痛み止め

この時期の痛みは主に带状疱疹ウイルスによる炎症が原因となる痛みが中心です。一般的な痛み止めであるアセトアミノフェンや非ステロイド性消炎鎮痛薬(NSAIDs)という種類の薬が主に使用されます。

帯状疱疹後神経痛に対する痛み止め

神経自体への障害によって起こる痛み(神経障害性疼痛)で、痛みの種類が“焼けつくような”、“締め付けられるような”、“電気が走るような”と様々です。痛み止めは以下の薬が主に使用されます。帯状疱疹後神経痛は、個人差がありますが比較的長期間の治療が必要になります。

・リリカ(プレガバリン)、タリージェ

神経障害性疼痛に特化した痛み止めです。これらの薬の副作用でめまいやふらつき、意識がぼんやりすることがあります。特に高齢の方はこれらの症状が原因で転倒して骨折する恐れもあるので十分注意しましょう。

・トリプタノール(アミトリプチリン)

主にうつ病の治療に使われる薬ですが、神経障害性疼痛にも効果があります。この薬の副作用で眠気、めまいなどの症状が出る場合がありますので注意しましょう。口の中が強く乾くといった症状が出る場合もあります。

・ガバペン

てんかんやけいれんの治療に使われる薬ですが、神経障害性疼痛にも効果があることが報告されています。薬の副作用でめまいや頭痛、意識がぼんやりすることがあるので注意しましょう。

・トラマール(トラマドール)

オピオイドという種類に分類される強力な痛み止めです。この薬の服用中に吐き気、便秘、眠気、めまいなどが起こることがあります。この薬の成分にアセトアミノフェンが配合されたトラムセットという薬が使用される場合もあります。

注意

抗ウイルス薬、痛み止めの中には、腎臓の働きが悪い場合に服用量や服用回数を減らさなければいけないものがあります。腎臓病の治療を受けている患者さんや透析患者さんは帯状疱疹の治療を受けられる際は医師に腎臓病の治療を受けていることを必ず伝えるようにしましょう。

参考文献
神経障害性疼痛薬物療法ガイドライン改訂第2版

